

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390900165		
法人名	特定非営利活動法人いわい地域支援センター		
事業所名	グループホームすりさわ		
所在地	岩手県一関市大東町摺沢字但馬崎25-16		
自己評価作成日	平成28年2月20日	評価結果市町村受理日	平成28年5月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.wam.go.jp/wamapool/hvoka/003hvoka/hvokokka_nsf/aQen?OpenAgent&JNO=0390900165&SYC=0001096&JIN=00&CC=01
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成28年3月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

“あなたの「・・・したい」を応援します。”の基本理念のもとで、次の点に力を入れて取り組んで来ました。
 ・外出の機会を多く作り、ご入居者様が地域の一員として生活し、笑顔が沢山見られるようご支援しています。
 ・ご入居者様個々の思いに日々寄り添い、共に生活し、ご入居者様の言葉を大事にし、信頼関係づくりと「安心・安全」に生活できる環境づくりに力を入れています。
 ・基本理念に基づき「笑顔・感謝・尊敬」「自立支援」「地域との交流」を常に心掛けてご支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、交通の要衝地で商店街の一角に位置し、周辺は商店、金融機関、住宅に囲まれ、法人のデイサービスの施設に隣接し、生活の利便性と介護業務の連携など、恵まれた場所に設置されている。事業所の理念を、より一層職員に徹底するため、職員の基本理念を定め、職員会議等を通じて職員に周知し、笑顔で感謝と尊敬の気持ちで利用者に接し、信頼関係を構築するとともに、利用者の持てる能力を活かし、自立支援を重点にサービスを提供している。日々の業務については、タイムカードや連絡カードにより、その日の業務の反省や改善提案などを職員が個々に自己評価し、それを職員間で共有し、業務の改善に繋げている。また、地域の商店街のイベントに参加し、「認知症カフェ」を開催し、地域住民の認知症への理解を深めるとともに、事業所のトイレを一般開放するなど、グループホームと地域が連携を進め、利用者が生きがいをもって生活できるよう、役職員が一体となり、地域に密着したサービスの提供を行なっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の共有を図るため玄関・ホールに掲示するとともに、出勤時に各自読み上げて、退勤時はタイムカードに実践できたかをチェックして共有の確認を行ってきた。	法人の理念を職員に徹底するため、より理解の得やすい職員の基本理念を定め、利用者へのサービスを提供している。また、タイムカードや連絡カードを活用し、一日の業務の反省と改善提案など、職員間で共有し、サービス向上につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議に地域住民の代表者に出席いただき情報交換を行ったり、地区内で開催される文化祭や発表会、元気市などのイベントに参加させていただきました。今年度は町内会にも加入させていただきました。日常的に買い物や床屋などを近隣のお店を利用しています。	立地する商店街のイベントに参加し、住民を対象とした認知症カフェを開催し、認知症への理解を浸透させるとともに、グループホームを一般公開し、より一層住民の理解を深め、さらに、商店街のグルメチケットの購入や商店からの食材の購入、夏祭りの盆踊り参加など、地域との連携の強化を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学の受入や相談にその都度対応しています。今年度は自治会の皆さんとの交流会や“1日認知症ケアカフェ”を開催しました。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催しています。 生活の様子を報告し、意見・助言・要望等をいただき、毎回職員会議に会議結果を報告しサービスの向上に活かしています。 構成員の方には地元の夏祭りや文化祭などのイベントの情報提供や助言をいただいています。	運営推進会議に、包括支援センター職員や地区の区長、福祉関係者、民生委員の参加を得て、業務運営や事故報告に対する助言やアドバイスなどに加え、地域でのイベントへ参加や花見などの開催場所の提案などを受け、利用者本意の介護支援と地域に密着したサービスの提供につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市との連携は、運営推進会議に参加していただき、サービスの取り組み方などへの助言をいただいたり、ご入居者様の生活の様子を報告しています。市の広報をご入居者様用に毎月届けていただいております。また、基本情報の提供や困難ケースの相談、各種手続きなどのご指導をいただいております。	市主催の介護法令の改正説明に理事長が参加し、職員に周知したほか、介護認定の変更の手続きを家族の要望により、市の出張所に出向き対応したほか、支所や地域包括支援センターから、日常の業務に関する指導や情報の提供を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>身体拘束は行っていません。 法人として25年10月1日「身体拘束・虐待廃止宣言」を行い、事業所内に掲示するとともに、あらゆる場面で身体拘束を行わないことを職員会議及び職員研修会で周知しています。 施錠も日中は、行っていませんが、夜間のみ防犯のため施錠しています。 安全に歩行ができるよう支援するため、人感センサーを使用して素早く察知できるようにしていますが、センサーで行動が制限されないように職員間で注意しています。</p>	<p>身体拘束については、職員会議で職員に徹底しているほか、広域行政組合のアンケート回答の機会や他の事例等を題材に理事長と話し合い、その結果を職員に周知している。特に、利用者への接し方や職員のイライラ解消など、具体的に指導、対応している。1日に何度も外出する利用者には、希望の都度、職員が同伴しているほか、ベッドからの転落予防のための、夜間のセンサーの利用は最小限とし、排泄などの支援と併せて活用している。また、利用者との言葉づかいなど、利用者の気持ちを大切に対応している。</p>	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<p>虐待は行っていません。 法人として25年10月1日「身体拘束・虐待廃止宣言」を行い、事業所内に掲示するとともに、虐待を職場では起こさないように職員会議及び職員研修会で周知徹底を図るとともに、防止に努めています。</p>		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	<p>「成年後見制度」「日常生活支援事業のご案内」などの冊子を職員に配布するとともに職員研修会で周知していますが、活用されるまでには至っていません。</p>		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	<p>改定等の際にはあらかじめ広報等でお知らせするようにし、契約書及び重要事項説明書をもって説明の上、質問や疑問、要望をお聞きしてご理解、ご納得をいただいています。</p>		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<p>玄関に意見・要望を記入できる用紙を設置しています。また、敬老会の際に個別面談の機会を設けました。ご家族様の面会時には生活の様子をお伝えするとともに、ご家族様からご要望、ご意見を伺っています。その結果は、広報に掲載したり、職員会議で報告、周知し迅速に対応するようにしています。</p>	<p>毎月の費用の請求の際に、利用者の状況を広報等を通じてお知らせしているほか、事故報告や家族の面会時に、意見や要望を伺っている。遠隔の家族に対しては、電話等でも意向を伺い、利用者へのサービスの向上につなげている。お歳暮や季節の果実など、利用者から親戚や知人に対する送付も支援している。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見や提案を管理者を通して代表者に報告・相談し、改善できるものは早急に改善するよう努めています。 また、不定期で全員による職員会議を開催したり、必要に応じて出勤者による職員会議を開催し、速やかに職員の意見を反映できるようにしています。	月1回、職員会議を開催し、職員の意見や提案等により話し合い、業務の改善に繋げている。また、連絡カードに利用者の状況や注意事項、改善提案などを記入し、職員間で回覧共有し、利用者へのサービス向上につなげている。特に、頻繁に外出する利用者への対応や、備品の整備、体調不良者への食事提供、勤務時間の変更など、職員の意見を業務に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者を通して代表者へ状況報告をしています。 職員処遇改善加算を導入して賃金の大幅な見直しを実施したり職場環境の整備や必要な環境整備に努めています。 また、外部評価に併せて職員の自己評価を行い個々の職員の意識付けや意向の把握に努めたりしています。休憩時間を確実にとれるようにするなど、職員が働きやすい環境作りに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員全員が、毎月の行事担当を持ち回りで担当することにし、自主的に行事に取り組めるようにした。伝講研修会や理事長が講話するなど研修会を行ったり、個々のケアの実際と力量に応じ、法人外の研修を受ける機会を確保しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会等に参加し他施設と交流の機会を作り、その際の意見や感想を職員で共有し、サービスに活用しています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご入居申込者様やご家族様に施設を見学していただいたり、要望や不安なことなどをお聞きしています。 ご家族様やご利用している事業所から情報を提供していただき、安心してご入居できるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様に見学の際には施設のサービス内容を説明しながら要望・質問に応じて、ご入居までの時間を充分とり、不安が軽減できるよう配慮しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご入居者様やご家族様の希望をお聞きするとともに、ADLの状態を把握し、必要とする支援を知るよう努めています。 医療ニーズの高いご入居者様には、通院介助したり、医療連携による訪問看護の利用を図っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	プランター植えや料理、習わし、季節の行事など人生の先輩として知恵やアドバイスをいただいています。 ご入居者様一人ひとりの出来るところを見つけて家事を行っていただいています。 家事や作業などで支えられている部分が多々あります。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月発行する広報や送付する文書を通じて生活の様子を伝えたり、情報交換を行いながら家族状況を考慮し、行事に参加していただいたりして絆を維持できるよう、また、通院や外出などご家族様の役割も担っていただきご入居者様を共に支えるように努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	買い物や床屋など今まで行っていたお店に行ったり、かかりつけ医もできるだけ以前からかかりつけ医に行くなど、以前からの知り合いなどと交流できる機会を作るように配慮しています。	日用品などは、近くの馴染みの店に出向いて、利用者が購入し、店主と世間話をしているほか、美容院や床屋にも出かけている。家族と外出し、自宅の訪問や外食などのほか、友人が事業所を訪問し、お茶話をすることもある。日々の生活のなかで、馴染みの場所や知人との関係を大切にし、交流する機会を創出している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者様同士の関係について職員間で情報を共有し、座席の工夫や余暇活動を通して交流が持てるよう支援しています。 また、職員が間に入りトラブルを回避したり、孤立することなく友好的関係が築けるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所する際に、家族と相談し、連絡・調整を行うよう、いつでも相談に応じています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、日常会話を通じて意向・希望を把握できるよう努め、ケースに記録して情報の共有を図っています。 また、職員は、ご入居者様とのかかわりの中で、意向を把握し、カンファレンス時に情報交換し、サービスに反映させています。	日々の生活の中で、利用者に笑顔で接し、食事の希望や調理の工夫などの申し出を受け、共に食事を作成するなど、利用者の意向の把握に努めるほか、カンファレンスで情報の共有を図り、さらに話し合い、リハビリ歩行訓練の実施など、サービスの向上につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居者様やご家族様より生活スタイルをお聴きしたり、慣れ親しんだ物を等を持参いただき、混乱することなく生活できるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録、連絡ノートを活用し現状の把握に努めるとともにカンファレンス時に職員が情報を共有できるようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃のご入居者様との会話の中やご家族との面談の中で意向を話し合ったり、居室担当職員は問題点や希望などカンファレンス時に話し合い、介護計画に反映させるとともに、ケアプランに基づくケアに取り組んでいます。	月1回のモニタリングとカンファレンス会議で、職員全員でチェック表を作成し、話し合い、その結果をまとめ、原案を回覧し、改めて職員の意見を受け、家族等の意向や要望を受け、同意のもとにケアプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別介護記録と連絡ノートで日々の様子や気づきなどを職員間で情報を共有し、支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご入居者様はもとよりご家族様もご入居者様を取り巻く環境要因の重要な一つと考え、それぞれの状況の変化に応じて、ご入居者様、ご家族様の要望をお聞きし、管理者の判断や連絡ノートの活用、カンファレンス等を通じてサービスの提供や変更を職員間で共有しながら行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のイベント(公民館行事、ご当地グルメin大東、文化祭、元気市)に参加したりして、地域の一員として生活を送っていると思えるよう支援をしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご入居者様の希望されるかかりつけ医に受診しています。かかりつけ医が変更になる際は、ご入居者様とご家族様が納得の上で変更されています。 受診の際には、職員対応を原則とし、ご協力を得られるご家族には経過報告を記載した医療機関連絡票をご持参していただき、通院をしています。	かかりつけ医の診療科目の変更により、利用者の一部が、診療医の変更があったが、多数の利用者は以前のかかりつけ医を受診している。原則、職員が同伴することとしているが、医師の指示により、診療内容の変更などの場合、家族を同伴して頂くほか、歯科などの特別な診療科については、家族に連絡表を渡し、家族の同伴により対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携を図り、訪問看護ステーションによる毎週火曜日訪問を得て、健康チェックを行っていただいております。必要ように応じて、訪問看護師に情報提供し相談しています。体調の変化を把握しながら、受診時のアドバイスや受診後の報告を行うとともに24時間オンコールできる体制をとっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時にはご家族様、医療機関と事業所間で「くらしのシート」を活用して情報交換に努め、対応しています。入院時は、薬の情報や生活の様子を伝えて、退院時には看護サマリーの提供も願っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化指針を家族に配布するとともに、運営推進会議においてもご協議いただき、マニュアルを見直しなど職員にも周知を図ったり、訪問看護ステーションと連携しています。	重度化した場合の対応については、入居時に家族の同意を得ているが、重度化した場合は、改めて家族の意向を聞き、要望に沿った対応をしている。看取りについては、法人の方針に基づき対応しており、過去に1回、経験がある。医師のターミナルケアの助言や新人職員などへの指導を通じて、職員間で勉強会を実施し、適切な対応を図れるよう体制を整えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時に対応するためマニュアルを整備し、職員は普通救命講習を終了しており、緊急時の救急車の要請や家族連絡の仕方を話し合い職員で情報を共有しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	総合訓練を今年2回(1回は予定)、避難訓練は1回開催。避難路を変えるなどして避難訓練を行っています。地元の消防団の防火点検も行われています。	防火対策については、DVDにより職員の研修会を実施したほか、消火、避難、通報の総合訓練を実施した。避難訓練については、隣接するデイサービスと連携を図り、類焼を想定した訓練を実施した。緊急時の食品については、3日程度の保存食を確保している。	地域との連携を図った防火訓練の実施を図るため、協力者の役割を明確化し、運営推進会議の会員や地域の防火協力員の参加を得るほか、薄暮時などでの夜間想定訓練の実施を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の保護に関する規程及び運用管理規程に基づくとともに、人格を尊重し、不快な思いをさせないような声かけを行うよう配慮しています。 ご入居者様の声に耳を傾けるようにして、大きな声や命令口調にならないように心掛け、ご入居者様の気持ちや誇りを傷つけないよう、また、不安な気持ちにさせないよう支援しています。マイナンバーの通知書の取扱いも国の基準に従い対応しました。	利用者への接遇については、DVDによる職員の研修を実施しているほか、日々の生活でのサービスについて、職員間でその都度注意し合うなど、利用者の人格を尊重した対応を心がけている。外出の場所や時間、広報への写真の掲載など、入居時に家族の同意を得て、対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自由に希望が話せたり、自己決定しやすい雰囲気づくりに心掛けています。上手く表現できないご入居者様には、職員が思いを汲み取り代弁するようにはしていますが、一方的に決めつけるのではなくご入居者様の意思の決定を待つように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせ生活できるよう支援しています。外出したい方には安全の確保のため職員が同行するようにしました。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	床屋、美容院などなるべくご入居者様の要望をお聞きして支援しています。衣類もコーディネートしておしゃれできるよう配慮しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	気候の良いうちは毎日買い物に出かけ、バランスに配慮しながら好みのメニューを取り入れています。調理や配膳、後片付けを手伝っていただいています。特に昼食作りはご入居者様全員が台所に立ち調理や布巾たたみなど何らかの形で関わる取り組みを行っています。 季節の行事には、ご入居者様全員で料理を作ります。また、制限食などの工夫もしております。	早期の利用者対応等のため、朝食及び夕食は、チルド食品を主として提供しているが、昼食については、食材の購入、前準備、調理、配膳、後片付けなど、一連の作業を、利用者と職員が共同で作業を行なっている。メニューは、利用者の希望を取り入れているほか、季節や郷土料理、更に誕生日など、特別メニューにより提供している。また、外出の際には、希望に沿い、食堂などでの外食を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりにあった食事量、食事形態の工夫をしています。食事量、水分量の摂取を記録し、過不足にならないようにしています。十分な食事ができないときは補食を勧めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事ケアに関するマニュアルに基づき、食後のうがい、歯磨き、義歯の手入れの声かけを行わない、できるところはご入居者様に行っていただくようにし、できないところの介助や仕上げを支援しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用して、一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけ誘導するとともに、表情やしぐさから排泄のサインを読み取り誘導しています。現在、日中はご入居者様全員がトイレで排泄されています。	排泄パターンを個別に把握し、利用者の気配をみて、それとなくトイレに誘導している。全員がトイレで自然排便をしており、排泄介護も見守る程度である。布パンツ、リハビリパンツの利用者は、概ね半々で、ポータブルトイレは、夜間3名の使用である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表から排便の把握し、原則薬に頼らないようにして、かかりつけ医や訪問看護師に相談しながら便秘薬の投与をしています。以前は浣腸に依存するところがありましたが、現在は浣腸の実施はありません。また、乳製品の飲料や野菜の摂取、軽い運動などで自然排便ができるよう予防に心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴介助に関するマニュアルに基づくとともに、入浴の曜日は決まっていますが、その時々で柔軟に対応し、一人ひとりのタイミングで入浴できるように、また、入浴時に声がけし、入浴したくない日は翌日に入浴していただいたり柔軟に対応し、急がせることのないよう支援しています。希望に応じて夜間入浴を行っています。	入浴は、原則週3回で、午後3時30分から6時までとし、希望者には夜間の入浴にも対応している。車イス利用者については、2名の介助で対応している。通常は、背中流し、洗髪介護を行い、自立者には見守ることが多い。入浴拒否者もなく、異性介助も問題はない。入浴後の化粧のほか、季節風呂の菖蒲、ゆず湯なども提供している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ソファなど休みたいところで、休めるようにしています。日中はレクリエーションや体操を行い夜間の安眠を促しています。		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書は個人ファイルに綴り、いつでも職員が見られるようにしています。薬が変更になったり、副作用の情報を連絡ノートや日誌に記入し全職員が把握するようにしています。通院時には、かかりつけ医に薬等による変化を報告しています。誤薬防止の取り組みを行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご入居者様毎にできること・できないこと、やりたいこと・やりたくないこと、得意なこと・得意でないこと、体調を見ながら、強制にならないよう自主的に調理や後片付け、食器拭き、タオルたたみ、洗濯物干し、カーテン締めなどそれぞれに取り組みんでいただき、役割を担っていただいています。毎月一日は、「お一日」を行ったり、月に1回以上は行事を行って普段とは違う日にしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご入居者様の希望でお花見や地域の行事など外出しています。冬期以外は、毎日お一人ずつ買い物に出かけたり、ご希望にそって食事や買い物に、全員で出かけたり、数人で出かけたりパターンを変えながら外出支援を行っています。	日常的には、4月から11月までは散歩として、事業所の周辺や商店街に出かけるほか、ショッピングセンターや植物園、もち料理店などにも車で行っている。そのほか、ドライブでの紅葉の室根山、敬老会の温泉旅館での入浴、さらに希望により、ラーメン店や誕生日のレストランでの外食なども行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の預かりはしていませんが、ご入居者様の希望する買い物はご家族に話し、立替えの形で利用していただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある時は電話できるようにしています。ご本人が携帯電話を持っている方もおります。ご家族に話したいことがある時は面会時または職員が変わってお伝えしたり、ご本人にお繋ぎするようにしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温、湿度に配慮しながら毎日の清掃を行い清潔を保っています。ソファ、畳、テーブルなど好きなところでくつろげるようにしています。それぞれのご入居者様に合わせ高さを変えたり、回転するものをご利用いただいております。季節のタペストリーを飾り付けたり、季節色を取り入れた行事を行ったり、手芸品を飾ったり、落ち付ける空間づくりに努めています。テレビも2台にし、ゆっくり見ることができるようになりました。	広々としたロビーに、食事用の円テーブル、ソファが配置され、利用者は、それぞれの場所でくつろいでいる。畳の小上がりとソファ前に、テレビがあり、希望の番組が見られる。季節を感じるものや、利用者の手作りの作品が展示されている。温度調節は蓄熱暖房のほか、エアコン、パネルヒーター、扇風機が設置されており、加湿器で空調が管理され、快適な生活環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ・畳・テーブルの配置があり、その時々で好きな居場所を選べるように支援しています。居室に表札を掲げたり、トイレや浴室に表示したりして迷わないようにし、安全に通れるよう通路を確保するようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居者様、ご家族様と相談し、花やぬいぐるみ、写真、アルバムなど慣れ親しんだ物を自由に持ち込んでいただいております。ご入居者様と相談しながら居室の配置をしています。	ベッド、クローゼット、テーブル、イス、チェストを常備し、希望者には、事業所のポータブルトイレを提供している。ナースコールは、全室に配置し、利用者の申し出に対応している。馴染みの家族写真やテレビ、携帯電話などを持ち込んでいる。室内は、エアコンや扇風機、加湿器で管理し、落ち着いた雰囲気となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前には、ご入居者様、ご家族様の了解のもと表札をかけて自分の部屋がわかるようにしています。また、手すりやトイレの表示で行い安心して生活できるよう環境をつくっています。		